



熊本地震で被災した料亭に 能の舞台画を再現

崇城大学

崇城大学（熊本県熊本市）芸術学部美術学科日本画コースの学生と卒業生、教員らが、熊本地震で被害を受けた料亭「田吾作」（熊本市西区）の大広間の舞台画再現を担当。同学科の中村賢次教授に依頼があり実現した。田吾作は120年以上続く老舗の料亭で、先代が能の演者ということもあり、大広間には能舞台が設置してある。1か月半という短い制作期間の中で、

杉板を張り合わせた高さ2m70cm、幅5m30cmも的大作に挑戦。伝統の松の画を日本画の技法・様式を使って描いた。お披露目の宴では、東京などから集結した芸者が舞を披露。松の画がその姿をより一層と艶やかに引き立てた。学生にとってこの経験は、技術継承の絶好の機会となったと同時に、様々な歴史や背景、それぞれの持つ意味などを学ぶこともできた。